



国際英語をテーマとするMacao International Forumでの招待講演者として(於 Macao Polytechnic Institute, マカオ, 2010年12月)

に住んでいたが、米国人のみならず十数カ国・地域から来ている学生たちとの共同生活であった。たとえばシンガポール人のフィリップと香港人のジョーが二人で中華料理をつくって私にごちそうしてくれたことや、急病で倒れた寮生をノルウェー人の偉丈夫のシエルや米国人の医学生リックと協力して病院に担ぎ込んだことなど、さまざまな情景を私は昨日のことのように思い出す。彼らの英語は発音も発想も多様だが、人としてのコミュ

ニケーションの基盤は普遍的であった。

「国際英語」教育の実践

帰国後は、東京国際大学の教壇に立ちながら講師を務めたラジオ講座『百万人の英語』において、念願の「国際英語」教育を実践した。たとえば、ゲストとしては、米国人だけでなくマレーシア、香港、スリランカ、バングラデシュ、フィリピン、フランスからの研究者や留学生を次々とスタジオに招き、日本式英語の私との対談を実施した(一九八九〜九〇年)。スリランカ人のゲストは、国際文化教育交流財団にご紹介いただいた奨学生であるスニル・ナワラトネさんであり、ご専門の経営学の観点から、日本とスリランカの関係や、当時の日米貿易摩擦について、わかりやすいスリランカ英語でお話しいただいた。

大阪大学における現在の自分の英語クラスでは、授業当日の世界中のニュースメディアを視聴し、読み比べ、英語で話し合うという授業を実践している。私は早朝に起きて衛星テレビの英語ニュースを録画して授業で扱う話題を選び、さらにインターネット上にある各国の英字新

聞における関連のニュースの内容を検討して、授業に備える。例えば、パレスチナ問題について、イスラエル保守派のThe Jerusalem Postとアラブ・イスラムのメディアであるAl Jazeera 英語版を読み比べると、同じ事件を反対の方向からみることがができる。さまざまな価値観に基づく国際英語の学びであるとともに、英語教育とメディアリテラシー教育の統合でもある。

授業当日の最新のニュースを素材とするのは、リアルタイムのニュースならばどの学生にとっても内容を知るべき必然性があるからである。また、英語の授業を、英語使用の単なるシミュレーションではなく、英語使用の本番と位置付けている。

これからも「国際英語」教育を推進することにより、微力ながら日本と世界の友好に向けて努力していきたいと思う。

最後に、法学部の学生であったにもかかわらず、英語教育の実践と研究を通じて日本に貢献したいという志を立てた自分を支援してくださった国際文化教育交流財団に、あらためて心から御礼申し上げます。

英米語を超えた国際英語の教育を志して

大阪大学大学院言語文化研究科教授

日野信行
ひの のぶゆき

国際文化教育交流財団一九八〇年度奨学生。八〇年大阪大学法学部卒業。八〇～八二年米国ハワイ大学大学院英語教育学研究科留学、修士課程修了。八三年国際商科大学(現東京国際大学)専任講師、八八年助教授。九〇年大阪大学言語文化部(現大学院言語文化研究科)専任講師、九三年助教授、二〇〇八年より現職。



国際英語 J-ING Japanese English

「アメリカ英語やイギリス英語というものがああるならば、同様に日本式英語が認められてもよいのではないか」と考えていた法学部生の自分が日本の図書館で出会ったのが、ハワイにあるイースト・ウエスト・センターの研究員ラリー・スミス氏による論文である。「国際コミュニケーションのための英語(国際英語)においては、非母語話者(ノン・ネイティブ)の発音の通用度は母語話者(ネイティブ)の発音に決して劣らない」という事実を

実験によって確かめた研究であり、まさに目から鱗であった。

実際、英語の非母語話者が聴き手ときには、音の脱落や連結が頻繁に起こる米国式の発音よりも、すべての音を律義に発音する日本式の英語発音のほうが通じやすい場合が多い。それが国際英語の現実である。さらに発音以外の面でも、日本的な価値観や思考様式を表現するには、英米語よりもJapanese Englishのほうが適している。たとえば、従来の英語教育のライティングでは、結論を最初に述べてその根拠を付していく米国式の論理展開のパターンを踏襲するのが常識と

●国際文化教育交流財団は、経団連第二代会長である故石坂泰三氏の遺徳を記念し、一九七六年に設立された。これまでに、世界三十一カ国の大学・大学院へ一八三名の日本人留学生を派遣するとともに、世界三七カ国五二九名の外国人留学生への奨学金の供与や講演会等を実施してきている。

されているが、国際英語としてのJapanese Englishの視点に立って日本の伝統的な「起承転結」を英語に応用するならば、「転」のところを相反する側面も吟味でき、結論が先行する米国式には欠けがちな部分を補うバランスの取れた議論が可能になる。

国際英語をハワイで体験

ハワイ大学大学院の英語教育学研究科に留学して、後に国際英語論の先駆者として世界的な名声を得るラリー・スミス先生の若き日々に師事して研究を行い、当時はまだ黎明期であったこの新しい学問の形成に参加できたことが、今日の自分の基礎となっている。

また、大学院での理論的な研究に加えて、ハワイでの二年間は、国際英語を生活のなかで体験することができた。私はハワイ大学の近くにあった民間の学生寮